おんがく広場 第73号
Facebook,Twitterにも掲載／リンクフリー／御自由にコピーして下さい　令和2年(2020)4月10日創刊
令和2年(2020) 8月4日(火)
発行・クッキー会　発行責任者・加藤良一
連絡先　rkato@max.hi-ho.ne.jp

音楽堂ではうつらない、うつさない

福井県立音楽堂

福井県立音楽堂ハーモニーホールふくいは、音楽活動再開に向け独自の「**新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策指針～音楽堂ではうつらない、うつさない～**」(福井大学医学部附属病院感染制御部・岩﨑博道教授指導・監修)を策定しました。この指針では、演奏会においては鑑賞目的の「観客」、公演を開催する「主催者」、演奏等を行う「出演者」が三位一体となって感染防御をしなければならないという原則に基づいて、個別に具体的な行動基準を示しています。また、練習室等を利用する「音楽愛好家」などにも同様の措置をとっています。

研修会で主旨を徹底

音楽堂では、7月19日、県内公立文化施設管理者及び音楽団体・個人を対象に研修会を開き、指針の周知徹底を図っています。

研修会は、今回の指針作成に全面的に協力された岩崎教授による基調講演「With Coronaの社会で生活様式はどう変化するのか？」に引き続き、ヤマハミュージックジャパンによる「管楽器・教育楽器の飛沫可視化実験」、「トイレにおける整列規制の紹介、練習室の換気可視化映像」、「コロナ下の音楽文化を前に進めるプロジェクト・実験レポート」、「パネルディスカッション：COVID-19時代の音楽活動を考える」で構成されていました。研修会の模様はすべてYouTubeに公開し、広く参考に供しています。

詳細は以下のサイトでご覧になれます。
https://www.hhf.jp/covid19/

「コロナ下の音楽文化を前に進めるプロジェクト」については、『おんがく広場』第61号でも紹介しましたが、本格的なクリーンルームを用いた大規模な実験です。音楽堂からも見学に参加され、現場の状況を詳しく映像で紹介しています。実験に参加したサキソフォン奏者須川展也さんのインタビューの模様もあり、大いに参考になります。実験結果は8月中に発表される予定です。

音楽堂ではうつらない、うつさない

いまやafterコロナからwithコロナへ考え方を変えねばならないとの認識に立ち、「音楽堂ではうつらない、うつさない」の実現を目指しています。感染拡大防止は「感染の確率(リスク)を可能な限り減らす」ことを施設側のみならず、利用者も一丸となって取組んでもらうという姿勢です。

新型コロナウイルスの特徴と感染経路を分析し、現時点で最良の予防策として、マスクなどの予防策には限界があるため、「石鹸を用いた30秒の入念な手洗い、もしくは乾燥した手のアルコール消毒」つまり手指衛生の徹底が重要としています。

感染を防ぐ行動とは

対象者ごとの行動基準を以下の三つに分けています。
①自身がウイルス保持者である可能性を意識した行動
②自身が媒介者にならないための行動
③ウイルスに感染しないための行動

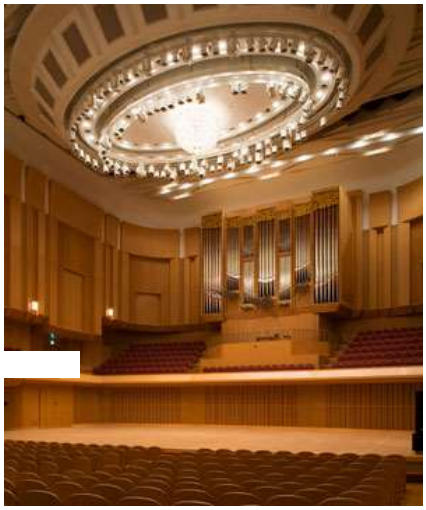
職員には、マスク・フェイスシールド、手袋、消毒作業を義務付けていますが、環境の消毒には限界があり、とくに汚染度が高い床面の完全な消毒は不可能であるとしています。そこで、通常清掃に加え、床に直接物を置かず、こまめな手指衛生の徹底を心掛けます。

感染発生時の対応

無症状の感染者が入館したことが後日判明したり、来館者が後日発症した際の追跡調査に耐えられるよう、来館者の氏名・連絡先を管理できる態勢を取る。紙媒体で管理するものは、1カ月程度保存後処分し、個人情報の流出防止に努めると規定しています。

福井県立音楽堂のステージマネージャー山本和治さんによれば、このホールは、大小のホールと音楽練習室を備えた県有施設で、管理運営は福井県文化振興事業団が指定管理者として行っているとのことです。

今回のコロナ対応では福井大学医学部の感染症専門医の協力を得て、4名の職員で対策プロジェクトを結成して取り組んでいます。前述のプロジェクトの結果を受け、新たに指針の見直しも視野に入れているといいます。



ハーモニーホールふくいは、福井県の民家をイメージした切妻屋根を特徴としたユニークなコンサートホールです。大ホールには、シンフォニック・オルガンと呼ばれるパイプオルガンが備え付けられています。